

第9次 奥尻町社会教育 中期5力年計画 (令和3年度～令和7年度)



はじめに

近年、グローバル化や少子高齢化など社会構造の大きな変化に伴い地域社会が変容し、今後の持続可能性が危ぶまれています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大はライフスタイルの変容など、社会の在り方を大きく変えようとしています。

奥尻町においても、人口減少・少子高齢化の進展やそれに伴う地域コミュニティのつながりの希薄化・担い手不足等の課題が山積しており、町民が主体的に町の課題や活性化について学び、考え、行動してつながっていく好循環の中で、まちづくりが進められることが必要となっております。

これらの課題に適切に対応していくため、奥尻町教育委員会では、令和3年度から7年度までの今後5年間の社会教育に関する指針として「奥尻町社会教育中期5カ年計画」を新たに策定いたしました。

この計画は、社会教育委員、スポーツ推進委員、文化財保護審議委員から構成される奥尻町社会教育中期5カ年計画策定委員会に諮問し、審議を重ねて答申をいただいたものです。

今後5年間は、教育委員会としてもその具現化にあたり施策の充実に努めて参りますので、関係機関や町民それぞれの立場からご理解とご協力を賜りますようお願い致します。

終わりに、本計画策定にあたり奥尻町社会教育中期5カ年計画策定委員会の皆様をはじめ、ご協力をいただいた関係各位に心より厚くお礼申し上げますとともに、町民の皆様の社会教育活動がより活性化されることをご祈念し、発刊のご挨拶と致します。

令和3年3月

奥尻町教育委員会
教育長 石島 孝 司

目 次

第1章 奥尻町民憲章と奥尻町教育大綱

奥尻町民憲章	1
奥尻町教育大綱	2

第2章 奥尻町社会教育中期5カ年計画

第1節 計画策定について

I 社会教育推進の基本的視点	3
II 計画策定の基本的な考え方	4
III 全体構造	5

第2節 社会教育各領域の計画

I 家庭教育	6
II 青少年教育	7
III 成人教育	8
IV 社会体育	9
V 歴史・文化	10
VI 施設運営	11

第3章 資料編

第1節 関連資料

I 奥尻町地域学び支援ネット参画リスト	13
II 社会教育施設の概要	22
III 指定文化財の概要	24

第2節 基礎資料

I 人口及び世帯数の推移	27
II 年齢別・男女別人口数	28
III 奥尻町立幼稚園・小中高等学校在籍者数の推移予測	29
IV 社会教育施設の利用状況の推移	30
V 社会教育に関するアンケート結果	31
VI 奥尻町社会教育計画のあゆみ	41
VII 奥尻町社会教育中期5カ年計画策定委員会名簿	42

第 1 章

奥尻町民憲章と奥尻町教育大綱

奥尻町民憲章

わたしたちは、緑ゆたかな神威の山と、幸多い日本海を友として、清くたくましく育まれた奥尻の町民です。

風雪に耐えて秘境をひらいた先人の偉業をたたえ、恵まれた自然と郷土を愛し、みんなの力と創意をはたらかせ、誇りと責任をもち、希望にみちた住みよい町づくりに努めます。

- 自然を生かし、環境をととのえ、美しい町にしましょう
- 力をあわせ、生産の工夫につとめ、豊かな町にしましょう
- きまりを守り、心とからだをきたえ、明るい町にしましょう
- たがいに学び、教養を高め、みのりある町にしましょう
- 郷土を愛し、未来をひらく若い力を育て、伸びゆく町にしましょう

昭和 53 年 7 月 15 日制定



おくしりチャレンジスクール「おくしり自然塾～キャンプ編～」にて

奥尻町教育大綱

教育目標

ふるさとに学び、次代を担うあたたかい人づくり

基本方針

1 確かな学力の育成と豊かな心を育てる学校教育の推進

教育課程の適切な編成・実施をするとともに、学習指導の工夫・改善を行い、望ましい生活習慣の定着などを通し、確かな学力の育成を目指します。

2 ふれあいと活力に満ちた地域づくりを目指す生涯学習・社会教育の推進

自発的に参加し、学び、地域の活性化を図る社会教育活動や、奥尻の自然と文化を生かし、豊かな心を育てる地域文化の創造を推進するほか、健康で充実した生活を営むため、誰もが気軽に参加できる社会体育活動の推進を目指します。

3 ふるさと奥尻を愛し誇りが持てる人づくり

地域住民等の協力を得ながら、社会全体で子どもたちを守り育てる体制づくりをめざし、様々な背景・特性を持つ子どもたちの育ち合いを支え、子どもから高齢者までの多世代が交流するなど、地域内や町民同士のつながりを強化し、ふるさと意識の醸成を図ります。

平成 28 年 1 月制定



令和 2 年度 成人式典の様子

第 2 章

奥尻町社会教育中期 5 力年計画

第1節 計画策定について

1 社会教育推進の基本的視点

グローバル化の進展などにより世界全体が急速に変化する中、日本においても人口減少と少子高齢化の進展、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化など、社会情勢は日々大きく変化しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大はこれまでの社会の在り方を大きく変えようとしています。

このような情勢の中、奥尻町でも地域経済の縮小、医療・介護の需給逼迫、地域の伝統行事等の担い手の減少、人と人とのつながりの希薄化などが危惧されております。

これらの課題を解決するためには、課題に対して当事者意識を持ち、能動的に行動することができる地域住民の育成（人づくり）や、課題解決を図るための地域住民の学習活動やボランティア活動などを支援し、その成果の活用の機会を提供すること（地域づくり）、その学習活動をとおしてつながりを生み出すこと（絆づくり）が重要となります。

これらの環境を築くために、

1. 自発的に参加し、学び、地域の活性化を図る社会教育活動をすすめる
2. 地域住民等と連携・協働し、社会全体で子どもたちを守り育てる体制づくりをすすめる。
3. 地域内や町民同士のつながりを強化し、ふるさと意識の醸成をすすめる。
4. 健康で充実した生活を営むため誰もが気軽に参加できる社会体育活動をすすめる
5. 自然と文化を活かし豊かな心を育てる地域文化の創造をすすめる

の5つの目標の実現を目指し、

【家庭教育】 地域・学校との連携による子育て支援の充実

【青少年教育】 未来を担う青少年の健やかな育成

【成人教育】 地域を担う「人づくり」

【社会体育】 スポーツをとおした

「健康づくり・仲間づくり・人づくり・まちづくり」

【歴史文化】 郷土愛を育む歴史・文化活動の推進

【施設運営】 社会教育施設の効果的な運営

の6つの領域による社会教育の推進を図ることで、今後5ヵ年にわたる本町社会教育行政を展開します。

II 計画策定の基本的な考え方

1. 計画の名称、期間

この計画は、「第9次奥尻町社会教育中期5カ年計画」と称し、令和3年度を初年度とする令和7年度までの5カ年計画とし、今後の社会状況の変化推移や事業の進捗状況により適宜調整を行う。

2. 計画の位置付け

- (1) 奥尻町町民憲章の理念として策定された「第6期奥尻町発展計画」及び「奥尻町教育大綱」に基づいて、その実現を目指す。
- (2) 第8次奥尻町社会教育中期5カ年計画（平成28年度～平成32年度）での課題や関連性を明確にしながら、これからの社会情勢を見据えて策定する。
- (3) 「北海道教育推進計画」、「檜山管内教育推進の重点」の指針を考慮する。

3. 策定までの経緯

この計画は、奥尻町教育委員会が令和2年度に次年度以降の計画更新に向けて、奥尻町社会教育中期5カ年計画策定委員会に諮問した。

策定委員会のなかでは、社会教育における現状や課題を明らかにし、領域ごとに部会を開き、審議を重ねたものを答申いただきまとめたものである。

III 全体構造

理念	奥尻町の風土に根ざす生活文化向上のため、生涯学習の観点に立ち、ふれあいと活力に満ちた町づくりを目指す社会教育の推進
----	---

目 標	領域と方向性	施 策
自発的に参加し、学び地域の活性化を図る社会教育活動をすすめる	1 家庭教育 地域・学校との連携による子育て支援の充実	(1) 親の育ちを応援する学びの機会の充実 (2) 家庭を見守る地域の支援体制づくり (3) 親子の健やかな成長の促進
地域住民と連携・協働しながら、社会全体で子どもたちを守り育てる体制づくりをすすめる	2 青少年教育 未来を担う青少年の健やかな育成	(1) 青少年の「生きる力」を育む (2) 青少年の「ふるさとを愛する心」を育む
地域内や町民同士のつながりを強化し、ふるさと意識の醸成をすすめる	3 成人教育 地域を担う「人づくり」	(1) 町民自らが主体的に地域課題に取り組む機運の醸成 (2) 地域全体で子育てを支援する気運の醸成 (3) 広域的な社会教育活動による地域の活性化 (4) 女性団体の社会貢献による地域の活性化 (5) 高齢者の生きがいづくりと知識の還元
健康で充実した生活を営むため誰もが気軽に参加できる社会体育活動をすすめる	4 社会体育 スポーツとおとした「健康づくり・仲間づくり・人づくり・まちづくり」	(1) スポーツ振興の基盤整備 (2) ライフステージと目的に応じたスポーツ振興 (3) スポーツ振興による人間力向上と地域活性化
自然と文化を活かし豊かな心を育てる地域文化の創造をすすめる	5 歴史・文化 郷土愛を育む歴史・文化活動の推進	(1) 「地域文化財」の保存と活用 (2) 歴史・文化を“見える化” (3) 文化振興及び発表・体験の場の充実
	6 施設運営 社会教育施設の効果的な運営	(1) 奥尻町海洋研修センターの効果的な運営 (2) 稲穂ふれあい研修センターの効果的な運営 (3) 奥尻島津波館の効果的な運営 (4) 奥尻町町民センターの効果的な運営 (5) 奥尻町板ヶ丘スキー場の効果的な運営

第2節 社会教育各領域の計画

1 家庭教育 一 地域・学校との連携による子育て支援の充実

現状と課題

近年、核家族化や少子化による家族形態の変化や地域社会とのつながりの希薄化などを背景に、子育て家庭の孤立化などの課題が生じやすい状況にあります。

また、子どもたちの豊かな心と健やかな体を育み、確かな学力を身に付けていくためには望ましい生活習慣の定着が重要となります。奥尻町では全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果から、基本的な生活習慣は身につけていますが、家庭でのテレビ視聴時間やゲームをする時間については課題が残るところです。

こうした現状から、子育て中の親が不安や悩みを解消し安心して子育てができるよう、地域・学校との連携・協働による家庭教育支援活動をとおして、地域全体で子育てをする環境づくりが必要です。

施策

(1) 親の育ちを応援する学びの機会の充実

子育てに対する不安や悩みの解消、子育ての仕方、関わり方など学習機会を充実させることで親の子育て力の向上を図る。

(2) 家庭を見守る地域の支援体制づくり

学校、地域、企業、行政が連携し、家庭教育に対する支援体制を整えることで、地域全体で子育て家庭を見守る体制づくりを行う。

(3) 親子の健やかな成長の促進

親子が一緒に参加しふれあえる事業や講座を設けることで、子育てへの関心を高め、共に歩む親子の健やかな成長を促す。

主な方策例

- a 家庭や子育てのあり方について夫婦、親子、父親などが参加できる研修会や講座の開催
- a PTA 連合会の活動の支援
- b 関係機関との連携による子育て支援の実施及び体制づくり
- a 親子で一緒に参加できる事業の展開

II 青少年教育 — 未来を担う青少年の健やかな育成

現状と課題

青少年の健全な育成は、青少年が豊かな人間性を育み、心身共に健やかに成長するとともに、社会との関わりを自覚しながら、次代の社会の担い手として自立することを目的とし、家庭・学校・地域・企業・行政機関等の連携・協働のもと、社会全体で行われなければなりません。

奥尻町では地域人材と連携し、奥尻の教育資源を活用した体験活動「おくしりチャレンジスクール」や中高生の祈漁太鼓、高校生ボランティアの活用などの事業をこれまでに行ってきました。

これらの活動を更に推進し、青少年の「生きる力」や「ふるさとを愛する心」を育成するために家庭、学校、地域で連携・協働する必要があります。

施策

(1) 青少年の「生きる力」を育む

学校・家庭・地域・企業・行政機関が連携・協働して、青少年の「生きる力」を身に付けることで、社会の一員としての自覚を高め、豊かな人間性を育む。

(2) 青少年の「ふるさとを愛する心」を育む

奥尻町の自然や文化、地域住民との触れ合いを通して、ふるさと奥尻を愛する心を育む。

主な方策例

- a 地域と子どもをつなぐ特色ある社会教育事業の実施
- b 他町との交流による人間性の育成

- a 地域行事への参加を通じた郷土愛の醸成
- b 地域資源を生かした体験活動の充実
- c コミュニティ・スクールへの支援

III 成人教育 ー 地域を担う「人づくり」

現状と課題

奥尻町は少子高齢化の進行と共に高齢人口の減少も進んでおり、人口減少が更に加速する事が予想されます。若年層も進学等で島を出てからUターンすることはあまりなく、更に20代30代の女性の減少率は全国4位となる結果が示され、「消滅可能性自治体」とされています。

このことは、地域産業を支える担い手不足や生産・消費の縮小、地域におけるコミュニティ機能の低下など生活に様々な影響を及ぼしており、かつて行なわれていた取り組みや事業など様々な活動の規模が縮小傾向にあります。

このような中、一人一人がそれぞれの能力や可能性を高め、更に変化に対応できる知識や技能を身につけ、地域の課題解決や様々な地域活動に参画することで地域に新たな活力をもたらす「仕掛け」づくりを進める必要があります。

施 策

主な施策例

(1) 町民自らが主体的に地域課題に取り組む

気運の醸成

持続可能な潤いのあるふるさとづくりをめざす学びを推進する。

- a 関係機関との連携による課題解決への学びの実施

(2) 地域全体で子育てする気運の醸成

奥尻町地域学び支援ネット（地域学校協働本部）を活用し、地域全体で子どもたちを育てる気運を高める。

- a 地域学び支援ネット参画リストの整理、活用
- b 家庭教育サポート企業等制度締結への呼びかけ

(3) 広域的な社会教育活動による地域の活性化

市町村間での交流や情報交換を通じて、地域の活性化を図る。

- a 社会教育団体同士の市町村間連携

(4) 女性団体の社会貢献による地域の活性化

女性の積極的な社会参画による、女性ならではの地域貢献を目指す。

- a 女性団体連絡協議会への支援
- b 女性大会への協力
- c 地域支援ボランティアの要請

(5) 高齢者の生きがいづくりと知識の還元

高齢者へ生涯学習や社会教育活動を展開することで、仲間づくり、生きがいづくりを進め、地域に還元することで地域の活性化を図る。

- a 異世代、同世代交流の促進
- b 高齢者の生きがいづくりを進める学習プログラムの提供

IV 社会体育 — スポーツをとおした

「健康づくり・仲間づくり・人づくり・まちづくり」

現状と課題

バランスの良い食生活や適度な運動など、健康志向が高まっている近年、これまでの競技スポーツに加え、軽スポーツや一人でも気軽にできる運動への関心も高まっており、スポーツに対する意識は多様化しています。

町内のスポーツ人口は、総人口とともに年々減少傾向にあり、チームスポーツにおいてはどの世代でもメンバー集めに苦慮しているところです。

今後は、既存のスポーツ活動を維持・発展させるため、スポーツ協会の活動を支援し、スポーツ推進委員を中心に地域ニーズを把握した施策を推進する必要があります。

また、町民一人ひとりが目的に応じて「いつでも どこでも だれでも」スポーツに親しむことのできる環境を整備するとともに、スポーツを「観る」「支える」という関わり方にも注目し、スポーツをとおした「健康づくり・仲間づくり・人づくり・まちづくり」を進める必要があります。

施 策

主な方策例

(1) スポーツ振興のための基盤整備

誰もが気軽にスポーツに取り組み、携わることができる環境を整備することで、スポーツ参画人口の拡大を目指す。

- a 学校施設開放事業の展開
- b 奥尻町スポーツ協会への支援
- c 奥尻町スポーツ少年団への支援
- d スポーツを「観る」「支える」機会の提供

(2) ライフステージと目的に応じたスポーツ

振興

スポーツの楽しさや、健康に関する正しい知識を伝え、子どもから高齢者までが活気に満ちた生活を送れるようなサポートをする。(健康づくり・仲間づくり)

- a 各種スポーツ大会・講座等の開催及び協力
- b 町民の健康維持・増進に関わるプログラムの提供
- c 町民体育祭実行委員会への支援

(3) スポーツ振興による人間力向上と地域活性化

スポーツをとおして人間力の向上を図り、人間関係の輪を広げることで、地域活性化につなげる。

(人づくり・まちづくり)

- a 指導者・有資格者の育成と支援
- b スポーツをとおした他町との交流機会の提供
- c スポーツに関連する情報や知識の提供
- d スポーツ振興に関する熟議の場の提供

現状と課題

郷土の歴史や文化を学んだり芸術文化に触れたりすることは、心の豊かさや生活への潤いを与え、生きる喜びをもたらします。地域を知り、共有することは郷土愛を育むとともに、人と人、人と地域の結びつきを強めることにつながります。

町内では、稲穂ふれあい研修センターにて島内の歴史文化を象徴する文化財を保存・活用し、奥尻島津波館と海洋研修センターにも一部の歴史文化財を展示して一般に公開しています。道及び町指定文化財の保護を含めて、限られた予算の中で対応してきているところです。

芸術・文化活動は多岐にわたり、多くの分野があります。自分の生活習慣に合わせて活動でき、交流を深めるきっかけともなり、自己肯定感や満足感を高めることにもなります。継続した学びや発表の場に参加することで地域への愛着が増し、地域社会を活性化させるなど、多くの効果が期待できます。

これから町の歴史・文化、芸術活動をさらに充実させることで郷土愛を深め、地域振興を図るためには、地域に残る文化的財産を「地域文化財」という資源とみなし、着実に次世代へつなげていくことが必要となってきます。

施策

主な方策例

(1) 「地域文化財」の保存と活用

遺跡、地域史、伝統芸能等に係わるヒトとモノを中心として「地域文化財」を発掘する。資料を集積し、展示・活用することで普及・啓発を図り、郷土愛の精神が自然に醸成されるようにする。

- a 収蔵資料の積極的活用
- b 新資料の収集と保存
- c 文化財保護の理念と重要性を学ぶ機会を提供
- d 郷土芸能、伝統祭祀の保護と継承

(2) 歴史・文化を“見える化”

見直されるべき「地域文化財」が存在すると認識して資源とみなし、島民のみならず来島客の興味関心を惹くよう見せていく。研修団体や学校見学の利用促進を図り、次世代につなげる。

- a 説明看板、パンフレット、学芸便り等による周知活動
- b 展示の仕方、見せ方の工夫。魅力的な展示、作品の提供
- c 研修団体や学校見学の受入れ

(3) 文化振興及び発表・体験の場の充実

各種文化団体やサークルの活動支援を行い、成果を発表することで世代間の交流を進める。文化体験の場を提供し、文化振興による地域振興を目指す。

- a 奥尻町文化協会及び所属サークルへの支援
- b 島内外で発表の機会や巡回公演等の体験の場を設ける

VI 施設運営 — 社会教育施設の効果的な運営

現状と課題

社会教育施設として運用している施設は、町民の社会教育活動やスポーツ振興を行う場所として設置されている。町民は各施設を社会教育活動や地域活動の拠点として活用しているが、各施設とも築年数が20年以上経過し、老朽化や劣化が顕著に現れてきている。

今後、各施設の役割を十分に発揮するため、町民の需要を把握し、利用を促すよう情報発信を図る必要がある、また、個別施設計画に則った各施設の運営を計画的に進めていく必要がある。

施策

主な方策例

(1) 奥尻町海洋研修センターの効果的な運営

- a 町民、社会教育活動団体への活動支援
- b 奥尻町読書活動推進計画に基づく図書室の運用
- c 生涯学習への普及活動
- d 個別施設計画に基づいた施設運営

(2) 稲穂ふれあい研修センターの効果的な運営

- a 町内歴史・文化資料を集積、展示による奥尻島史の伝承
- b 研修活動への支援、協力
- c 個別施設計画に基づいた施設運営

(3) 奥尻島津波館の効果的な運営

- a 町内災害・文化資料を集積、展示による北海道南西沖地震の伝承
- b 防災意識の啓発活動
- c 個別施設計画に基づいた施設運営

(4) 奥尻町町民センターの効果的な運営

- a スポーツ活動の普及振興
- b 研修活動への支援、協力
- c 個別施設計画に基づいた施設運営

(5) 奥尻町桜ヶ丘スキー場の効果的な運営

- a 町民の冬期間の健康増進とスノースポーツの普及振興



令和2年度 岬めぐりツアー



平成31年度 奥尻町町民体育祭「マラソン大会」

第 3 章

資 料 編

第1節 関連資料

1 奥尻町地域学び支援ネット参画リスト

令和3年3月現在

家庭教育サポート企業

家庭教育サポート企業制度は、北海道教育委員会が家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等と協定を締結し、企業は「職場の子育て環境づくり」「職場見学・職場体験の実施」「学校行事への参加促進」などの取組みを通じて家庭教育の一層の推進を図るための制度です。

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
1	ハートランドフェリー 株式会社奥尻支店	船舶内、陸上施設の見学 船舶輸送活動、社会的役割の講話 切符販売等の体験学習	2-3131	繁忙期（5～9月）外が望ましい
2	株式会社海老原建設	建設現場などの体験学習	3-2424	中高が望ましい
3	叶寿司	成功できる人、できない人の分かれ道について講話	2-3340	いつでも可 中高が望ましい
4	株式会社堀清水組	パワーショベル、油圧ショベルなどの重機体験	2-2344 2-3270	高校生が望ましい 現場にて対応可
5	株式会社明上石油店	職業体験から学ぶ島のエネルギー事情 島での商工業生き残り戦略の講話 スタンドでの体験学習	本店（青苗） 3-2033 支店（奥尻） 2-2066	スタンドは春、秋が対応しやすい 室内はいつでも可
6	奥尻ライオンズクラブ	地域の子どもたちの見守り	奥尻商工会議所 2-3030	
7	有限会社奥尻電化センター	地域の子どもたちの見守り 学校行事への参加奨励	2-2340	
8	有限会社奥尻総合サービス	地域行事での子どもたちの見守り 学校行事への参加奨励	2-2918 2-3258	
9	成田薬店	地域の子どもたちの見守り	2-2005	
10	ヤマト運輸株式会社 奥尻センター	安全教室の実演 荷物の集荷から配達までの講話	2-2611	6、7、12月以外

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
11	北の岬さくらばな	食堂、売店の体験学習 加工所での体験	2-3630	6、7月が対応し やすい
12	旅の宿大須田	学校行事への参加奨励 職場体験	2-2776	職場体験は小中 高で通年対応可
13	奥尻島御宿さくち	職場見学、職場体験	2-2755	
14	大同舗道（株）奥尻 営業所	舗装工事の職場（現場） 見学	3-2669	
15	民宿ふる里館	職場体験	2-2463	
16	奥尻島観光協会	職場体験 観光について出前講座 防災教育として津波語り べ	2-3456	
17	（有）プラザーサン	職場体験 子どもたちの見守り、声 がけ	2-2078	
18	株式会社越森石油電 器商会	子どもたちの見守り 職場体験	2-2330	
19	日本郵便（株） 奥尻郵便局	職場見学、職場体験を通 して働くことの意義につ いて話し合う機会を作る 学校行事への参加奨励	2-2600	
20	奥尻町交通安全協会	地域行事への協力、支援	2-2774	
21	日興電機株式会社 奥尻営業所	地域行事での子供たちの 見守りや安全 電機技術の安全について の講話	3-2078	
22	坪谷冷菓店	職場体験	3-2045	
23	株式会社奥尻ワイナ リー	ブドウ畑の収穫、ワイン 工場の見学 など職場体験	工場 3-1414	
24	社会福祉法人 奥尻 福祉会（老人ホームお くしり荘等）	職業体験（中学生） 介護体験学習（高校生） 交流学习（小学生） 学校行事参加促進、有給 休暇活用促進	3-2600	

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
25	奥尻町社会福祉士会	福祉に関する普及啓発 成年後見制度に関する普及啓発	3-1700 (千田眞紀子さん)	
26	奥尻町技能者協会	大工、塗装、配管などの体験	3-2627 (三上工務店)	中・高可 1~3月が望ましい
27	民宿いなほ	職場体験の受け入れ 子どもたちの見守り	2-2230	小・中・高可 時期要相談
28	民宿木村さん家	職場体験の受け入れ	2-2552	中・高可 年中可能だがお客様が確実にいる7~8月が望ましい
29	宮津簡易郵便局	職場見学受け入れ	2-3367	小学生可
30	あけがみ新聞販売所	配達時の地域の子どもの見守り 週間まなぶん配布	2-2992	
31	渡島総合振興局 函館建設管理部 奥尻出張所	工事現場の見学 道路事業の概要の講話	2-2134	中・高可 夏期~冬期可 松江・神威脇対応可
32	ひまわり弁当	地域の子どもの見守り	2-3110	
33	ひやま漁協奥尻支所	職場体験受け入れ	2-3141	小・中・高可 5~7月、9~11月受入可(要相談)
34	石川精肉店	職場見学	2-2225	幼・小可 要相談
35	(株) ライフボックスやました	職場体験の受け入れ	2-2010	小・中可 10月頃が望ましい
36	辻売店(フェリーターミナル2F)	職場体験の受け入れ 職場訪問	2-3237	小・中・高可 観光シーズン(6~8月)
37	(有) さいとうストアー	職場体験の受け入れ	2-2124	中・高可

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
38	Bella vista (ペラピスタ)	職場体験の受け入れ	090-2870- 3369	小・中・高可 9, 10月可
39	村田理容院	地域の見守り	2-2034	
40	サロンド・トップ (理容店)	職場見学、体験の受け入れ	2-2418	小・中・高可
41	まつや食堂	職場体験の受け入れ	2-2067	中・高可
42	cafe faro	職場体験の受け入れ	2-7635	中・高可 閑散期の9, 10 月が望ましい
43	民宿 清運丸	地域の子どもたちの見守り	2-2315	
44	民宿 いしおか	職場体験・訪問の受け入れ	2-2328	中・高可 観光シーズン (6~8月) 受入 可
45	川尻水産	塩ウニ加工体験	2-2036	中学生可 7月15日~8月 15日可 工場対応
46	福野商会	職場体験の受け入れ	2-3722	高校生可 10月20日~12 月、3月20日~ 5月連休以外対 応可
47	株式会社 おくしり旬会	職場体験の受け入れ	3-3969	小・中・高可 6~12月可
48	松江簡易郵便局	職場体験の受け入れ 通勤時の子どもたちの見守り	3-2951	小・中・高可 9, 10月が望ま しい
49	合同会社 奥尻警備保障	地域の子どもたちの見守り	2-7300	
50	スーパーあおなえ	職場訪問	3-2177	幼・小可 冬期間除く
52	民宿土井	職場体験の受け入れ	3-2770	中・高可 7~8月可

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
53	ホシバ配管	水道管のネジ切り、組立	3-1474	高校生可 2~3月が望ましい 自社作業場で対応
54	有限会社 辺見商店	視察、職場見学	3-2008	4, 8, 12月以外可
55	(有)丸一森田商店	子どもたちの見守り	3-2924	
56	素泊まり民宿 島じかん	子どもたちの見守り	3-2924	
57	小山製材所、ペンションこやま	職場見学、地域の子どもの見守り	3-2063	職場見学実施は要相談
58	日本郵便青苗郵便局	地域・学校行事への参加 職場訪問の実施	3-2300	
59	有限会社青苗ハイヤー	ホテル客室清掃の工程や ランドリー見学、体験。 タクシーを使用し、島内 観光地をめぐる奥尻再発 見や島の交通事情の学習	3-2339	タクシー仕組み は会社敷地内で 実施。観光・交 通事情は奥尻島 内で実施。
60	野口製材所	学習用木材の提供等	3-2076	
61	工藤建設株式会社	地域行事への協力・支援 学校行事への参加促進	3-2658	備考
62	民宿かさい	奥尻高校島留学生受け入 れ支援	3-2590	
63	神威脇温泉管理者 (有) 伸栄機械産業	地下資源について講話 (含有質及び温度に関し て) 公衆浴場に関するのマナ ー学習 家庭の風呂と温泉の違い 講話(効能について) 温泉スケール付着につい ての講話	3-1130	幼・小・中・高 可 通年午前中対応 可(定休日以 外)

学校支援企業

奥尻町の学校や子供たちのために支援や協力をしてくださる企業や団体をご紹介します。

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
1	有限会社奥尻クリーンサービス	下水道施設、浄化槽保守点検など施設見学、業務について講話	3-2702	
2	食堂潮騒	職場体験	3-2839	

行政機関

奥尻町役場をはじめ、各行政機関も奥尻町の子どもたちの生きる力やふるさとを愛する心を育みます。

	部署	支援内容	連絡先	備考
1	総務課	職場体験の受け入れ	2-3401	中高が望ましい
2	保健福祉課 子ども支援係	ひよこ教室（1歳児）、カモメ教室（2歳児）対象の乳幼児や保護者との関わりや体験活動	2-3381	対象乳幼児が慣れてくる10月以降 中高が望ましい
3	保健福祉課 保健指導係	健康づくりに関する講話	2-3381	学校対応可 小中高が望ましい
4	保健福祉課 母子保健係	性の講和（小5・6年生） 赤ちゃん人形・妊婦疑似体験	2-3381	学校対応可 小中高が望ましい
5	税務国保課 税務係	租税教室など税の仕組みについて講話 税に関する事であれば対応可	2-3407	学校対応可 小中高が望ましい
6	保健福祉課 包括支援係	高齢者、障害者疑似体験セット貸出し 介護、高齢者に関する講話	2-3381	学校対応可 小中高が望ましい
7	地域政策課 商工観光係	島の観光に関することについて講話や職業体験	2-3404	学校対応可 小中高が望ましい

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
8	地域政策課 政策推進係	地熱エネルギー、エネルギー 施策、まちづくり、人口問題 などの講話 島の未来を語りあう際の支援	2-3403	学校対応可 小中高が望ましい
9	環境センター 環境管理係	環境センターの施設見学	3-2747	
10	発電課	奥尻島における発電状況につ いて講話 実際に動いている発電機の見 学	2-2301	3、4月以外対 応可 小中が望ましい 現場で対応
11	空港管理事務所 管理係	活動風景の見学	3-2153	小中高が望まし い現場で対応
12	教育委員会社会 教育係	奥尻島津波館での当時の状況 について講話 稲穂ふれあい研修センター で、島の歴史や昔の生活様式 について講話、勾玉作り体験	2-3890	現場で対応 津波館は7、8 月以外、 稲穂ふれあい研 修センターは、 木土以外が望ま しい
13	水産農林課水産係	魚貝類の観察（幼、低学年） アワビセンター見学、アワビ マグネットづくり、メカブ等 の加工体験、魚貝類の解剖 （小学生） アワビセンター簡易作業体 験、ロープ結び体験（中学 生）漁業、魚について講話	2-3410	時期によって内 容は変化 現場、学校対応 可 人数が多すぎると 対応難しい 幼小中が望まし い
14	水産農林課農林係	リンゴ園での作業体験（摘 果、袋かけ、袋外し、収穫） 木質バイオマスの講話 チップボイラー見学 稲作（田植え、稲刈り）作業 アスバラ収穫作業 醸造用ブドウの収穫作業 植樹活動の体験（植樹祭）、 木質教室	2-3411	すべて作業時期 があるので早め に要確認 小中高対応可 リンゴ狩りのみ 幼稚園児対応可

	企業・団体名	支援内容	連絡先	備考
15	建設水道課	浄水場、下水道施設の見学	2-3409	小学生が望ましい 現場で対応
16	奥尻町議会総務係	町議会のしくみについて講話 町議会の傍聴	2-3412	
17	奥尻町国民健康 保険病院	職場体験の受け入れ 将来看護婦を目指したい人の 実習体験	2-3151	中高が望ましい
18	江差警察署奥尻 駐在所	警察の仕事やパトカーの装備 品など現地説明 職場体験（指紋採取して識別 鑑定など）	2-2016	小中学生が望ましい
19	檜山広域行政組 合奥尻消防署	消防業務棟を授業で説明 消防車や救急車、機械器具の 見学	2-2047	消防署にて対応 可 幼小中高対応
20	檜山地区水産技 術普及指導所奥 尻支所	水産業の概要や水産普及活動 について講話 海の生物観察など現地体験学 習	2-2018	小学生、夏休み 明けが望ましい 学校、現場対応 可
21	檜山森林管理署 奥尻森林事務所	ゲームを通じて森林に親しむ（低学年） 木工等を通じて森林に親しむ（中学年） 樹木の識別で森林に親しむ（高学年） 森林働き、奥尻森林状況講話（中学生） 日本、世界の森林状況講話（高校生）	2-2077	5～10月頃が可 学校対応可 現場（保護林や 公園）で対応 要早めの相談 少人数対応
22	航空自衛隊 北部航空警戒管 制団第29警戒隊	航空自衛隊の仕組みの授業 奥尻島分屯基地の役割授業 奥尻島分屯基地の見学	2-2046	小中高で可 学校での説明 可、基地での対 応可 時期は都度調整

社会教育関係団体

地域の社会教育活動に自発的に参加し、学ぶことで、地域の活性化や町民の豊かな心を育むことを目的とした団体で、文化活動、体育活動をはじめ、学校や地域とさまざまな形で関わっています。

	団体	目的	愛好会
1	奥尻町文化協会	文化活動を通し町民の相互の親睦と郷土文化の向上発展に寄与することを目的としている。	1 楽心会（茶道） 2 SKG サーティーン（舞踊） 3 トール&デコラティブペイント工房「アンジェリケ」 4 パーチメント（工芸） 5 押し花サークル（押し花） 6 ファブリックの会（手芸） 7 奥尻ピアノサークル（ピアノ） 8 奥尻吹奏楽団（吹奏楽） 9 奥尻短歌会 10 奥尻島文化研究会（郷土研究） 11 生花の会 12 その他個人会員
2	奥尻町スポーツ協会	町民の体育振興と親睦を図り、体力の向上とスポーツ精神を養う。	1 剣道振興会 2 スキー愛好会 3 バレーボール愛好会 4 ミニバレー愛好会 5 野球愛好会 6 奥尻走友会 7 バドミントン愛好会 8 卓球愛好会 9 ゲートボール連合協議会 10 青苗パークゴルフ愛好会
3	奥尻町女性団体連絡協議会	女性の地位と教養を高め、正しく社会を理解し、民主的な女性団体活動の推進によって女性の幸福を図る	
4	奥尻町 PTA 連合会	奥尻町内各学校の相互の連絡を緊密にするとともに、町内児童・生徒の家庭生活、学校生活、社会生活における望ましい成長を図る。	
5	奥尻町スポーツ少年団	スポーツを通して、少年の心身を鍛錬するとともに、町内スポーツ少年団の育成指導を図る。	1 奥尻剣道スポーツ少年団 2 奥尻スカイバード野球少年団

II 社会教育施設の概要

奥尻町内にある社会教育施設についてご紹介します。

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻町海洋研修センター	字奥尻 314 地先	2-3890	図書室の利用 社会教育団体の活動 会議、講演 調理室の利用など
	開館日時	休館日	
	平日(4~10月) 9時~21時 平日(11~3月) 9時~20時 土日祝9時~17時	毎週月曜日 ※月曜日が祝日の場合は、直後の平日 年未年始	
	延べ床面積	設立年	
	2,402㎡	平成8年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
稲穂ふれあい研修センター	字稲穂 162	2-2201	歴史・風土学習 古民具見学 体験学習など
	開館日時	休館日	
	5月初旬~10月末 の9時30分~16時 30分	木・土以外	
	延べ床面積	設立年	
	585㎡	平成15年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻島津波館	字青苗 36	3-1811	津波の記録の学習 防災意識の啓発 研究、研修など
	開館日時	休館日	
	4月下旬~10月31 日の9時~17時	7月・8月以外の 月曜日	
	延べ床面積	設立年	
	1,347㎡	平成12年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻町町民センター	字赤石 144	2-3220	スポーツ 調理実習 町内会利用 宿泊研修 弓道場の利用など
	開館日時	休館日	
	13時～16時 18時～21時	毎週月曜日 年末年始	
	延べ床面積	設立年	
	1,929㎡	昭和63年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻町桜ヶ丘スキー場	字奥尻 501	毎年度番号変更 (1～3月のみ)	スキー スノーボード 愛好会の活動 検定など
	オープン日時	定休日	
	12月末～3月中旬 平日 13時～21時 土日祝 10時～21時	悪天候等による休 止以外、開放中は なし	
	延べ床面積	設立年	
	17,500㎡	昭和54年	



おくしりチャレンジスクール「町民スキー教室」(桜ヶ丘スキー場)

III 指定文化財の概要

北海道指定文化財

新羅之記録	
種別	有形・美術工芸
住所・所在	奥尻郡奥尻町字赤石 松前家所蔵
指定月日	昭和 45 年（1970）2 月 12 日
概要	初期の松前家の事績を記録する古文書で、寛永 20 年（1643 年）に編纂された松前家系図を 6 代藩主の弟、松前景廣がその不備を正し、記述を補って作成された。北海道最古の歴史文書と言われる。上下 2 巻の巻物で、「家譜一・二」と記され、巻頭と巻末には源氏の氏神である新羅神堂の朱印が押される。「新羅之記録」とされる由縁である。別名「松前国記録」、「新羅記」とも。

青苗砂丘遺跡	
種別	史跡
住所・所在	奥尻郡奥尻町字青苗 337-1 ほか
指定月日	平成 20 年（2008）3 月 18 日指定
概要	青苗砂丘に埋もれた 6～7 世紀頃のオホーツク文化の遺跡の存在が判明した。この文化は、サハリンやオホーツク海沿岸で栄えた文化で、舟で海上を移動したことにより遠い奥尻島まで到達したものと推測される。遺跡からは土器や石器の他に、人骨やクマの歯、本州産（島根県）の管玉や鉄製刀子など特徴的なものが発見され、列島の広範囲で交易が行われていたことを示している。砂丘の地下約 2m の場所に遺跡が広がり、近年では平成 5 年（1993）の北海道南西沖地震津波を受けて削られたが、砂丘のおかげで後ろ側の住宅の被害が軽減するなど、自然の防波堤の役割も果たしている。オホーツク文化の南下を示す重要な遺跡である。

青苗遺跡出土品	
種別	有形 美術工芸（考古）考第 28 号
住所・所在	奥尻郡奥尻町字奥尻 314 地先（奥尻町教育委員会内）
指定月日	平成 29 年（2017）3 月 31 日指定
概要	<p>昭和 51・52 年（1976・1977）度に青苗遺跡から出土した骨角器と土器 119 点が北海道有形文化財に指定された。道指定は「新羅之記録」、「青苗砂丘遺跡」に次いで島内 3 例目、考古遺物では初めてで、同部門では、檜山管内でも 2 例目。</p> <p>遺跡は奥尻島南端、青苗地区の海を見下ろす段丘上に位置し、縄文時代と擦文時代の文物が出土する複合遺跡。海岸部へ続くゆるやかな斜面には、かねてより擦文期の貝塚が存在することが知られており、昭和初期のとある紀行文にも「鮑の貝塚」として登場する。</p>

	<p>貝塚出土品の内、約 8 割がアワビの殻で、他にニホンアシカや魚類の骨、ウニの殻などがみついているが、それらに混じって、獲物を捕獲するために使用した漁労具である、クジラやシカの骨で造られた精巧な骨角器が多数出土し、研究者の注目を浴びている。</p> <p>北海道の擦文時代は本州の平安時代に相当し、貝塚の時期は付近から出土した土器の特徴から 11～12 世紀頃のものとして推定される。この頃はすでに貝塚が遺されるような時代ではなく、青苗の事例は極めて稀。そこから出た骨角器の多くは、鋸頭と呼ばれる離頭鋸の先端部分で、一部に鉄製の矢じりが残るものや、鹿角製の基部に装飾が施されたもの等があり、島に出入りしていた擦文人の漁労生活の一端を解明する好資料。擦文人は、島の名産品となるアシカの毛皮や干しアワビを用いて、手広く交易を行っていたものと推定される。</p> <p>※奥尻町海洋研修センターにて一部を展示中</p>
--	--

奥尻町指定文化財

丁字頭勾玉	
種別	有形・美術工芸（考古）
住所・所在	奥尻郡奥尻町字奥尻 314 番地地先（奥尻町教育委員会内）
指定月日	平成 21 年（2009）12 月 22 日
概要	<p>青苗遺跡出土の勾玉で、大きさは北日本で最大級、丁字頭タイプは北日本では非常に稀な出土例である。形状や特徴から古墳時代の西日本に由来する可能性がきわめて高い一級品の丁字頭勾玉である。糸魚川産のヒスイ原石を用いた勾玉は近畿地方を中心とする西日本に多く発見され、古代における日本海交易の結果、奥尻島にもたらされたと考えられる。</p> <p>※夏季は奥尻島津波館にて展示中</p>
鍋釣岩	
種別	名勝
住所・所在	奥尻郡奥尻町字奥尻奥尻海岸沖（鍋釣海岸 4 間半先）
指定月日	平成 11 年（1999）7 月 26 日
概要	<p>高さ約 19m の奇岩で、その形が鉄鍋の弦（つる）に似ているところから命名されている。岩は海底の火山活動に由来し、溶岩が噴出ししかかったまま冷却されて固まり、後世に軟質だった周囲の岩盤が消滅し、溶岩部分だけが取り残されたもの。岩石の石質は安山岩。明治時代以前から岩に生えている植物はヒロハノヘビノボラスと言い、とげがあって、蛇が登れないというのが、命名の由来。震災の影響で若干崩れたため、脆弱な箇所を補強してある。</p>

宮津弁天宮	
種別	有形（建造物）
住所・所在	奥尻郡奥尻町字宮津 83 番地
指定月日	平成 11 年（1999）月 26 日
概要	文政年間（1818～1829）に、宮津地区の漁民の手によって氏神として境内と社殿が創設され、海上安全と豊漁を祈願して弁財天が祀られた。その後、改めて広島の巖島神社より宗像三女神が祀られ、天保 12 年（1841）に祭神（長女の澳津島姫命）が奥尻地区に移され、現在の澳津神社となった。以降は「宮津弁天社」や「中津島神社」とも呼ばれる。古くは 9 世紀頃のオホーツク文化の遺跡（宮津遺跡）や、16～17 世紀頃のアイヌの砦であるチャシ（宮津チャシ跡）が築かれていたと考えられ、その“チャシ”は“茶津”（宮津の旧名）の語源になったと言われる。奥尻海峡を行き来する舟を見渡せる場所であり、神社が建立される以前から奥尻島において重要な場所であったと思われる。現社殿は、昭和 45 年に建設された。

徳洋記念碑	
種別	有形（建造物）
住所・所在	奥尻郡奥尻町字青苗 青苗岬先端（徳洋記念緑地公園内）
指定月日	平成 26 年（2014）10 月 1 日
概要	明治 13 年（1880）に青苗岬で英国軍艦が座礁した際、乗艦していた有栖川宮威仁親王の遺徳と国境を越えた救助活動の美德を讃えるもの。親王が海軍少尉補として乗船し、訓練のため遠洋航海の途中、青苗沖に座礁した。親王は島に上陸し、島民や他国の軍艦とともに救助活動にあたった。青苗在住の三国十次郎は、この事績を後世に伝えようと精力的に情報収集に努め、昭和 6 年（1931）、徳洋記念碑が完成した。全長約 17m、鉄筋 RC 造。福岡五一設計、地崎組建設施工。その後岬を襲った、昭和 58 年（1983）の日本海中部地震津波と、平成 5 年（1993）の北海道南西沖地震津波に耐えた近代建造物であり、奥尻の歴史を見守ってきた貴重な記念碑である。



宮津弁天宮

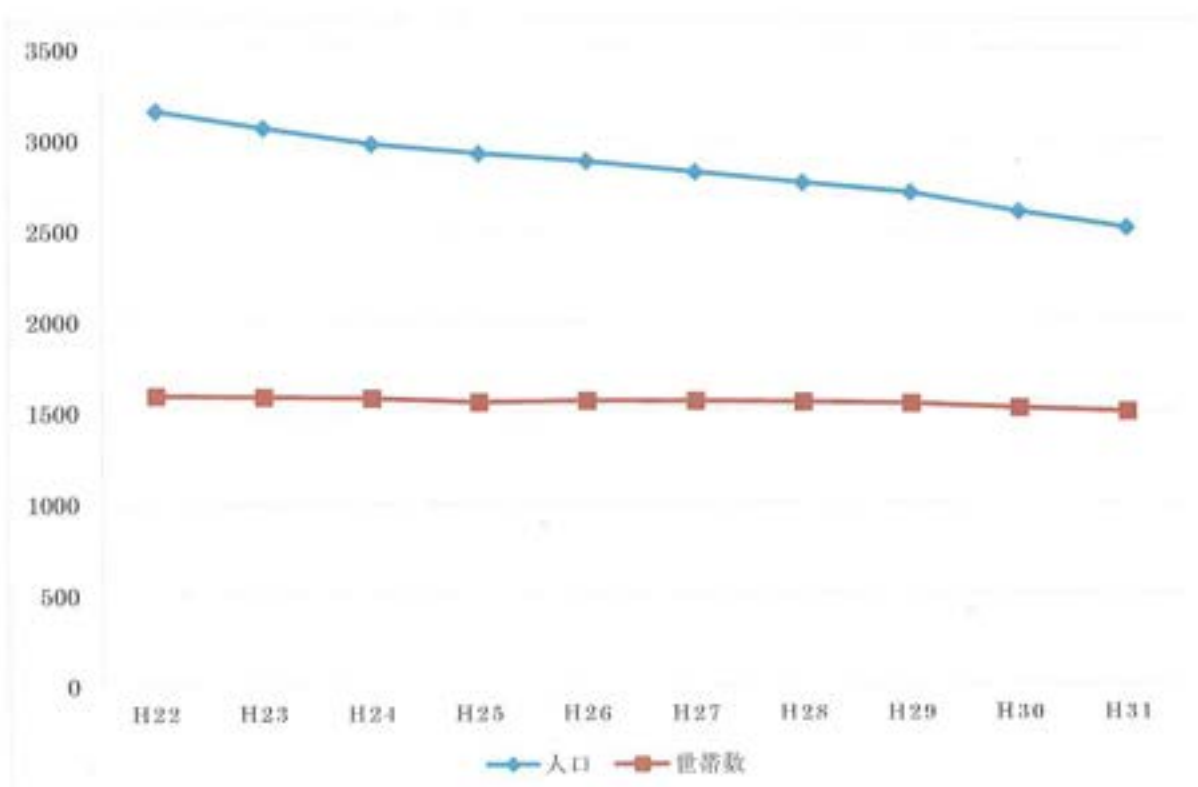
丁字頭勾玉（上段）青苗遺跡出土原土土器（下段） 錨約岩

第2節 基礎資料

1 人口及び世帯数の推移

年度別	総人口（人）			世帯数（世帯）
	男性	女性	計	
平成22年度	1,604	1,556	3,160	1,595
平成23年度	1,556	1,511	3,067	1,589
平成24年度	1,523	1,455	2,978	1,582
平成25年度	1,494	1,432	2,926	1,558
平成26年度	1,476	1,406	2,882	1,566
平成27年度	1,458	1,365	2,823	1,563
平成28年度	1,437	1,325	2,762	1,556
平成29年度	1,415	1,291	2,706	1,547
平成30年度	1,368	1,232	2,600	1,519
平成31年度	1,346	1,165	2,511	1,499

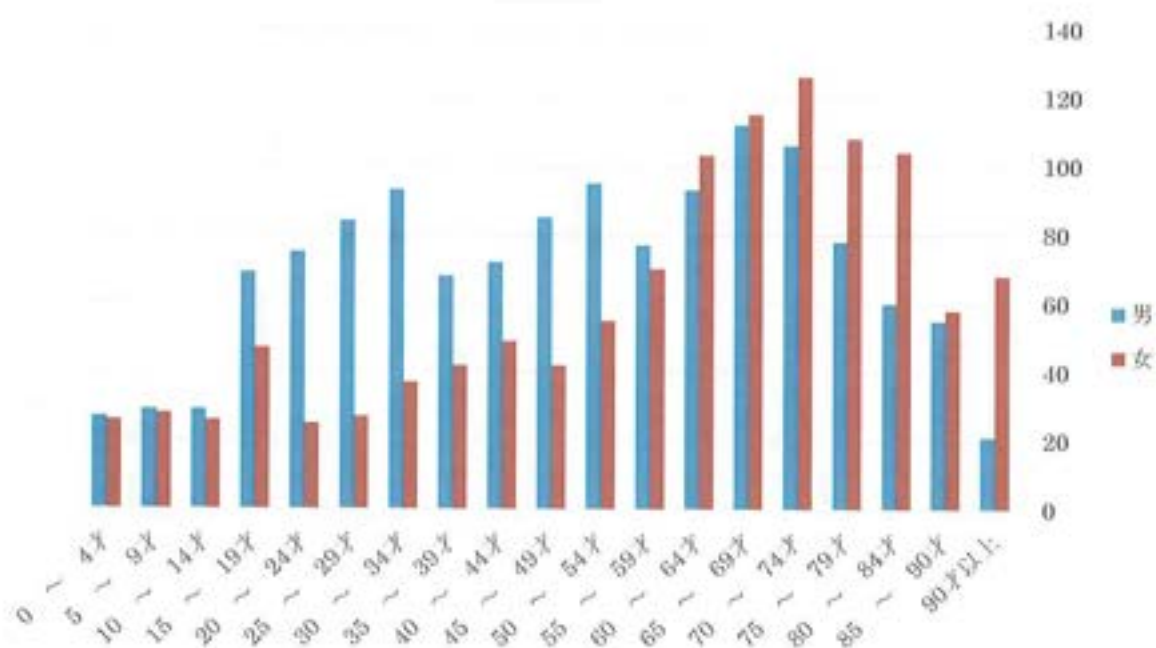
※ 各年度の3月31日時点で集計



II 年齢別・男女別人口数

年齢別	令和2年度		
	総数	男	女
総数	2,488	1,332	1,156
0～4才	53	27	26
5～9才	57	29	28
10～14才	55	29	26
15～19才	116	69	47
20～24才	100	75	25
25～29才	111	84	27
30～34才	130	93	37
35～39才	110	68	42
40～44才	121	72	49
45～49才	127	85	42
50～54才	150	95	55
55～59才	147	77	70
60～64才	200	93	103
65～69才	227	112	115
70～74才	232	106	126
75～79才	186	78	108
80～84才	164	60	104
85～90才	113	55	58
90才以上	89	21	68

※ 令和3年1月31日時点で集計



III 奥尻町立幼稚園・小中高等学校在籍者数の推移予測

1 幼稚園児の今後の推移（平成27年～令和6年まで）

年度別	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
奥尻	18	35	33	33	16	20	22	28	22	15
青苗	17	9	14	12	16	12	10	7	5	4
総計	35	44	47	45	32	32	32	35	27	19

2 小学校児童の今後の推移（平成27年～令和6年まで）

年度別	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
奥尻	46	42	40	32	41	42	42	43	44	47
青苗	32	35	33	28	31	32	29	26	22	23
総計	78	77	73	60	72	74	71	69	66	70

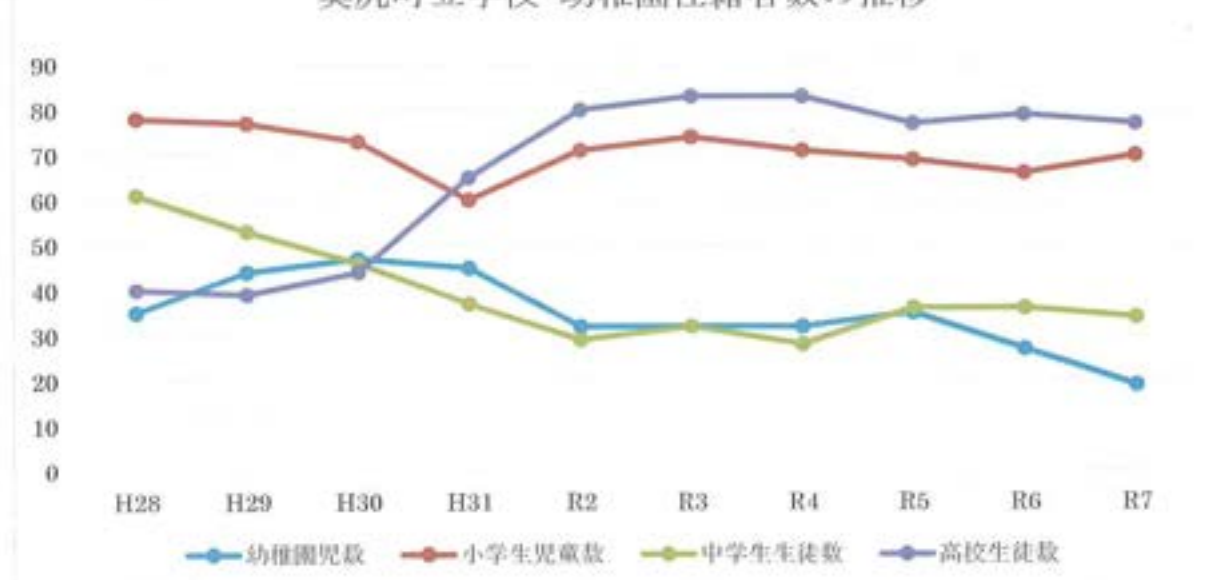
3 中学校生徒の今後の推移（平成28年度～令和7年度まで）

年度別	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
奥尻	21	平成29年3月31日 廃校 ※新奥尻中へ統合								
青苗	40	平成29年3月31日 廃校 ※新奥尻中へ統合								
新奥尻	—	53	46	37	29	32	28	36	36	34
総計	61	53	46	37	29	32	28	36	36	34

4 高等学校生徒数の今後の推移（平成28年度～令和7年度まで）

年度別	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
奥尻	40	39	44	65	80	83	83	77	79	77
総計	40	39	44	65	80	83	83	77	79	77

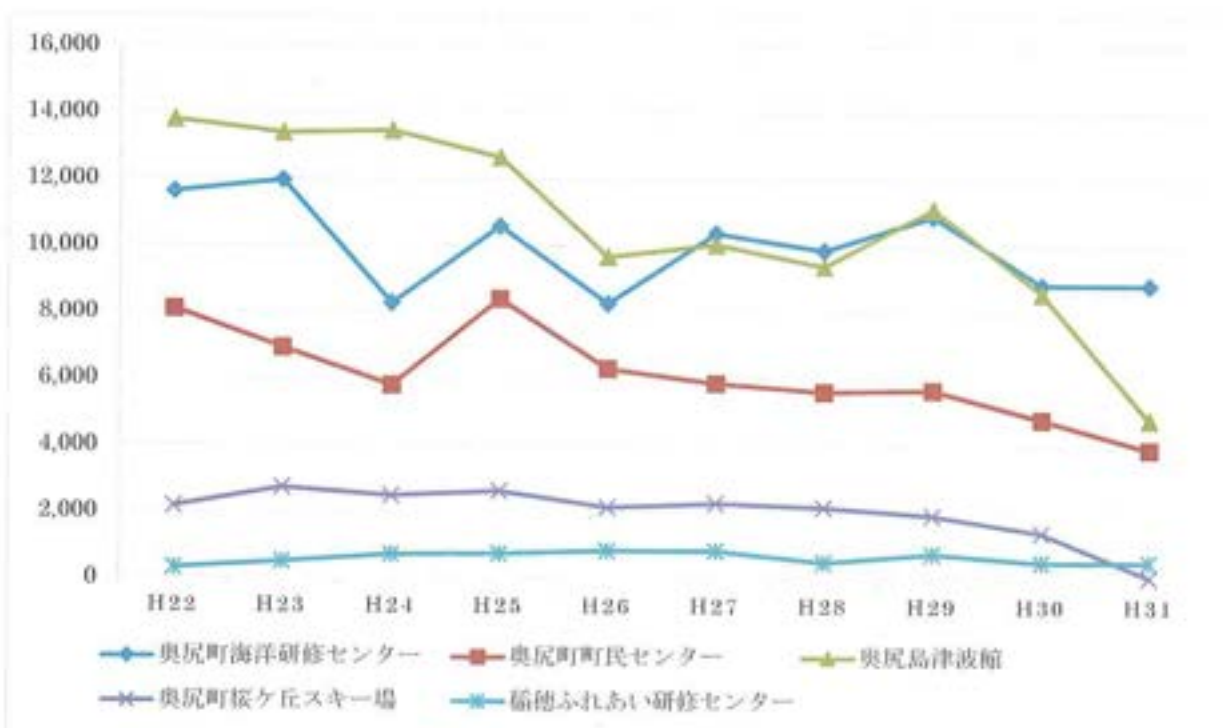
奥尻町立学校・幼稚園在籍者数の推移



IV 社会教育施設の利用状況の推移

年度別	奥尻町海洋研修センター	奥尻町町民センター	奥尻島津波館	奥尻町桜ヶ丘スキー場	稲穂ふれあい研修センター
平成 22 年度	11,604	8,073	13,770	2,149	300
平成 23 年度	11,950	6,910	13,369	2,713	492
平成 24 年度	8,264	5,788	13,444	2,473	711
平成 25 年度	10,583	8,393	12,644	2,624	739
平成 26 年度	8,264	6,297	9,666	2,140	832
平成 27 年度	10,375	5,863	10,045	2,265	835
平成 28 年度	9,870	5,618	9,391	2,148	505
平成 29 年度	10,896	5,670	11,113	1,913	758
平成 30 年度	8,841	4,797	8,581	1,393	506
平成 31 年度	8,841	3,909	4,805	67	518

※ 各年度の3月31日時点で集計



V 社会教育に関するアンケート結果

調査回答率 300 人中 146 人 (49 %)

問1 年齢

年齢	人数	回答率
ア 15歳～19歳	12人	20%
イ 20歳～29歳	17人	30%
ウ 30歳～39歳	22人	40%
エ 40歳～49歳	20人	40%
オ 50歳～59歳	18人	45%
カ 60歳～69歳	27人	60%
キ 70歳以上	27人	70%
無記入	3人	
	146人	49%



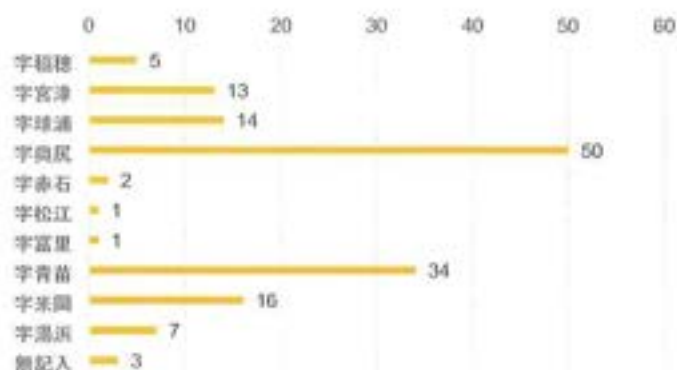
問2 性別

ア 男性	64人
イ 女性	72人
無記入	10人



問3 住所

ア 字福穂	5
イ 字宮津	13
ウ 字球浦	14
エ 字奥尻	50
オ 字赤石	2
カ 字松江	1
キ 字富里	1
ク 字青苗	34
ケ 字米岡	16
コ 字湯浜	7
無記入	3
	146

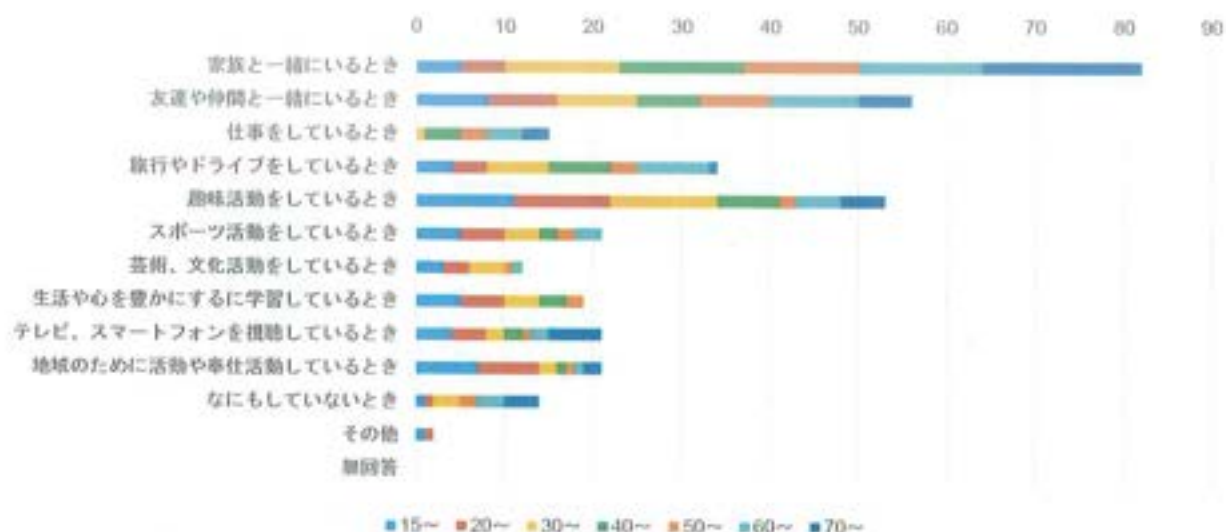


問4 職業

ア 水産農林業	5人
イ 会社員・会社役員	13人
ウ 自営業	8人
エ 公務員・団体職員	40人
オ 専業主婦（夫）	18人
カ アルバイト・会計年度任用職員	20人
ク 学生	12人
ケ 無職	25人
コ その他	0人
無回答	3



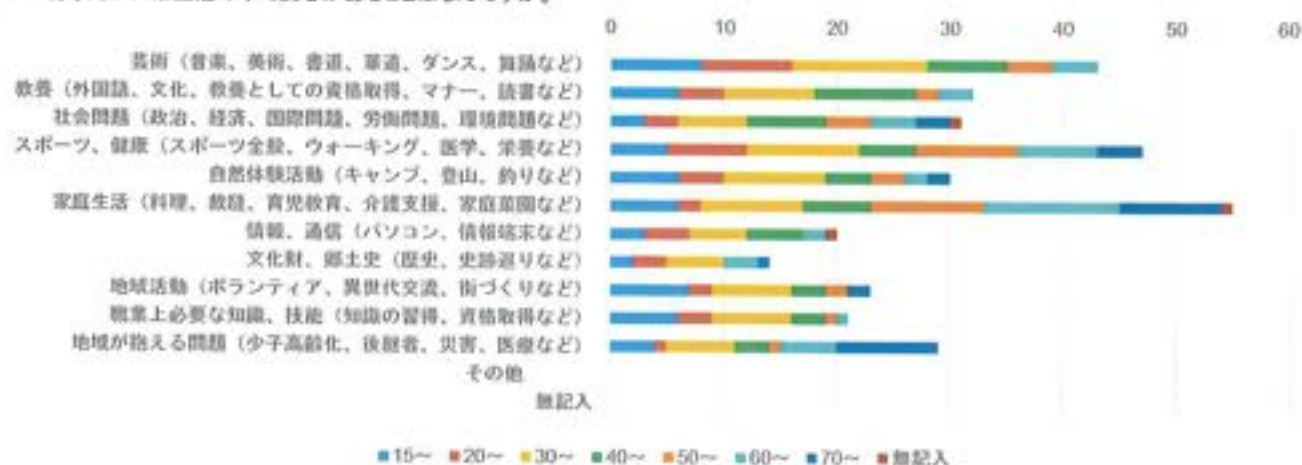
問5 あなたが日常世活の中で、心から満足したと感じるときは、どんな時ですか？



考 察

全体で見ると「家族とっしょにいるとき」が多いが、年代別に見ると若い世代が「趣味活動をしているとき」「地域のために活動や奉仕活動をしているとき」に興味を持っていることがわかる。
 年齢を重ねるごとに「家族と一緒にいるとき」の重要度が上がってきている。
 40代・50代は家庭のことや仕事に忙しいのか、趣味活動への興味が少ないことがわかる。

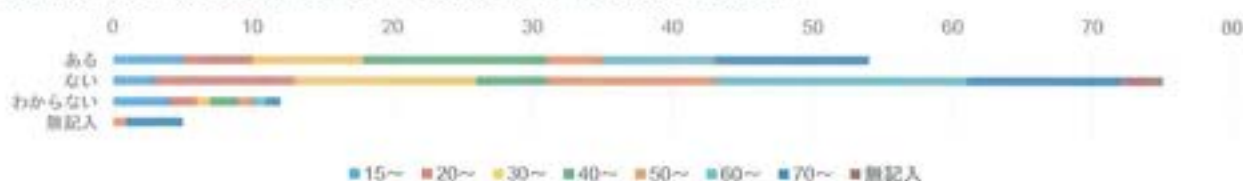
問6 あなたが日常生活の中で関心があることはなんですか。



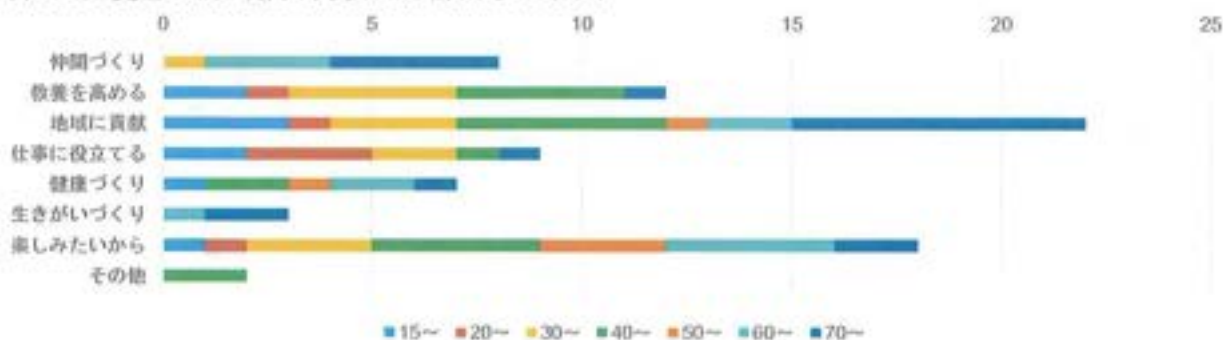
考 察

世代別に関心のあることが分かれており、
 ・10~30代は芸術・スポーツ ・40代は教養 ・50~70代は家庭生活、地域が抱える問題
 にそれぞれ興味があることがわかる。

問7 あなたは、今までに教育委員会が実施している社会教育事業に参加したことがありますか。



問8 問7で「ある」を選んだ方に質問です。参加した理由はなんですか？

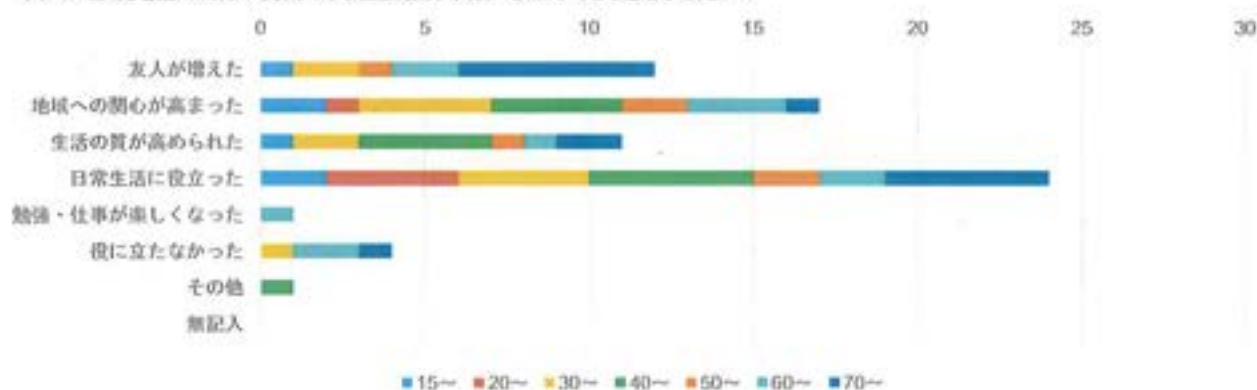


その他 ・お役に立てるなら。 ・子どものため

考 察

「地域に貢献する」が多いことから、「地域づくり」に関心があることが行われる。
 高齢者は「仲間づくり」「生きがいづくり」を目的としており、若者は「仕事に役立てる」が多く、スキルアップを望んでいる。

問9 問7で「ある」を選んだ方に質問です。社会教育事業に参加してどう感じましたか？

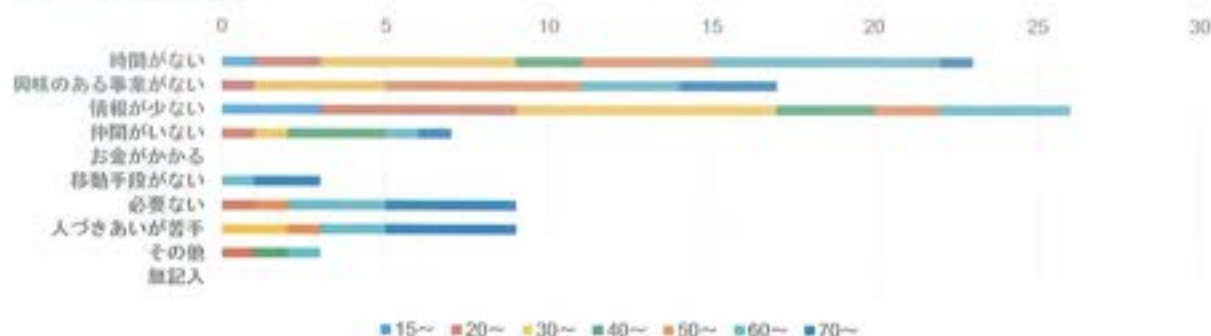


その他 ・必要があるならやるけれど、需要がないなら時間を割いてまではしなくていいかな？

考 察

参加して「日常生活に役立った」と答える割合は各年代で多かった。また、「地域への関心が高まった」が多かったことから、地域づくりの動きにつながったのではないかと推察される。
 高齢者は「友人が増えた」が多く、事業を通して仲間作りのきっかけとなったことが伺える。

問10 問7で「ない」を選んだ方に質問です。社会教育事業に参加したことがない、しない理由は何ですか？

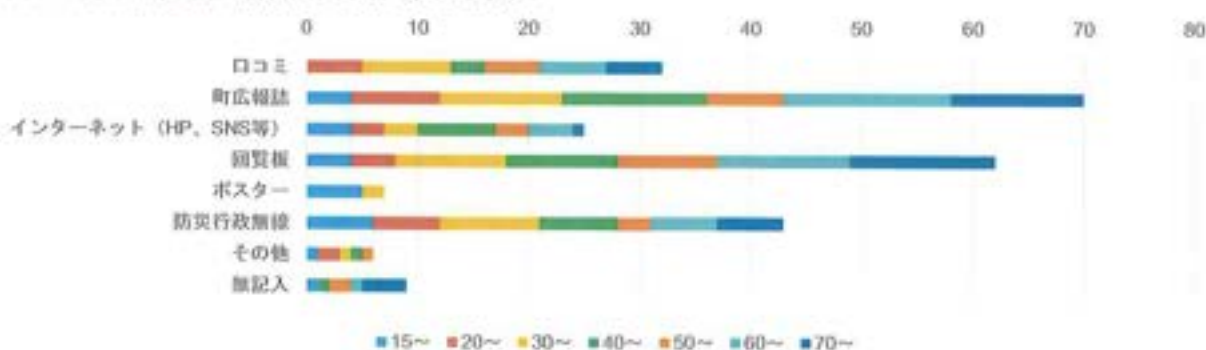


その他 ・実施していることを知らなかった ・今年度Uターンしてきたので。 ・転勤族で参加する機会がない

考 察

「情報が少ない」が一番多く、情報発信方法の見直しを検討する必要がある。
 「興味のある事業がない」がない項目も多いので魅力ある事業の提供が必要である。
 「時間がない」が多いのは、仕事や家族のことで忙しいことが影響していると考えられる。

問11 あなたは、社会教育事業の情報をどのように得ていますか？



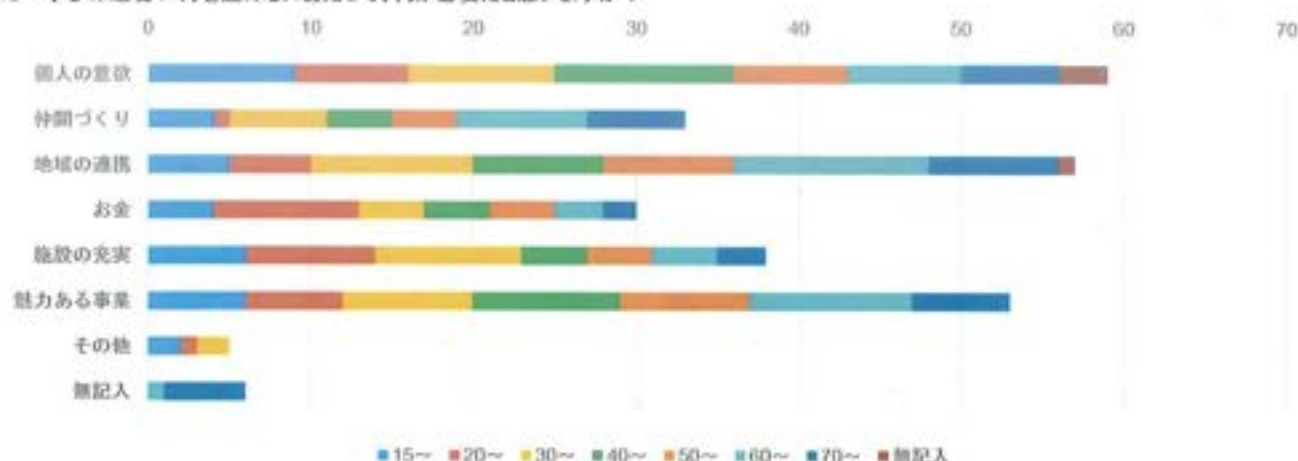
その他

・どこに情報が書いてあるかわかりづらい ・特別 入手していない ・特になし
 ・得るとしたら広報誌からだが、目についたことがない ・知らなかったため今回HPで調べた ・学校で配布されたプリント

考 察

多くの人が「町広報誌」「防災行政無線」「回覧板」から情報を得ていることがわかる。
 これらのことはもちろん、今後はSNS等も活用していくことが必要だと思われる。

問12 学びの環境づくりを進めるにあたって、何が重要だと思いますか？



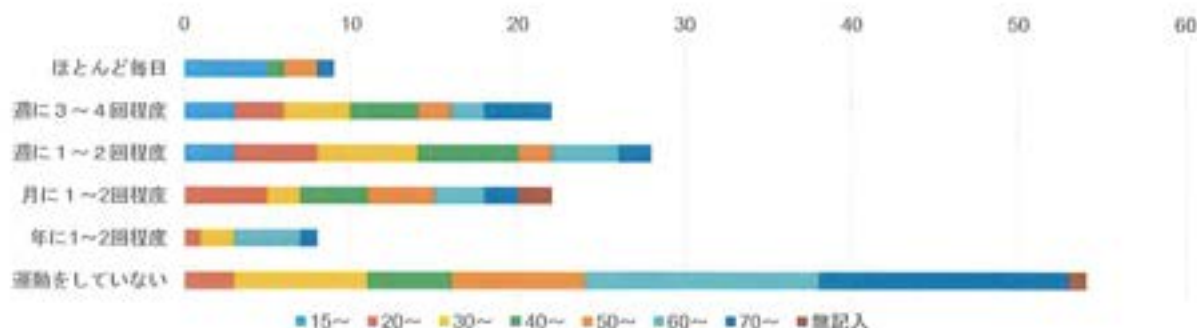
その他

- ・島民の危機感
- ・向上心
- ・個人のニーズに合わせて
- ・実施したときの様子を詳しく発信していただくと次回気軽に講演会、行事等参加しやすくなると思います
- ・個人の意欲と共に、学んだ知識を活かせる場があると、学び甲斐につながると思います。
- ・学びのテーマを設定すること

考 察

「個人の意欲」を引き出すような魅力ある事業を地域の理解と協力を得ながら連携して行っていくことが大切である。
 また、その他に「個人の意欲と共に、学んだ知識を活かせる場があると、学び甲斐につながると思います。」とあるように、学びと活動の循環を意識していくことが大切である。

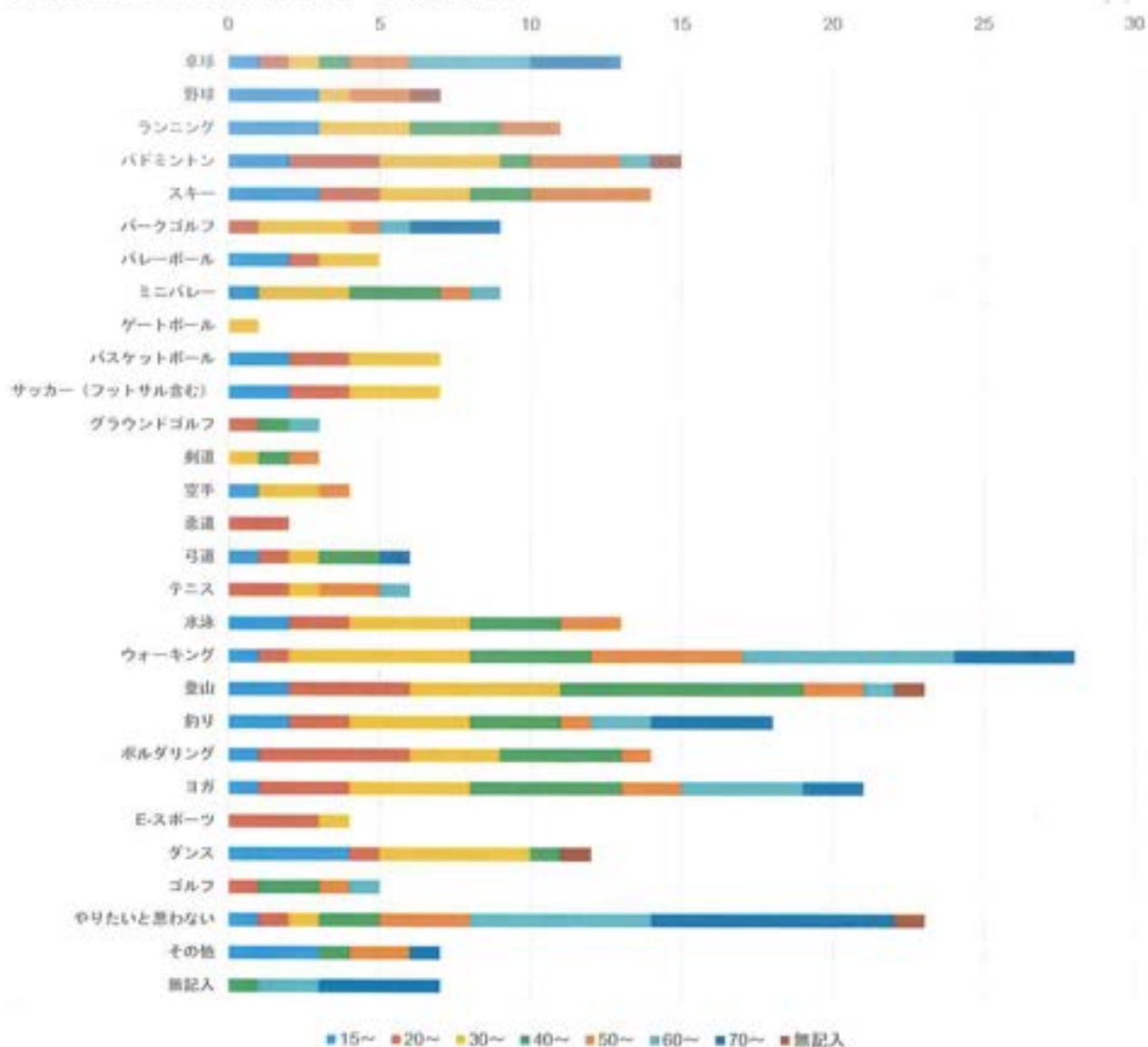
問13 あなたはこの1年間で、どのくらい運動やスポーツを行いましたか？



考 察

この一年間で運動していない人は多いということがわかった。
 手軽にスポーツを行えるような環境作りが必要である。

問14 あなたがこれからやってみようと思う運動やスポーツはありますか？

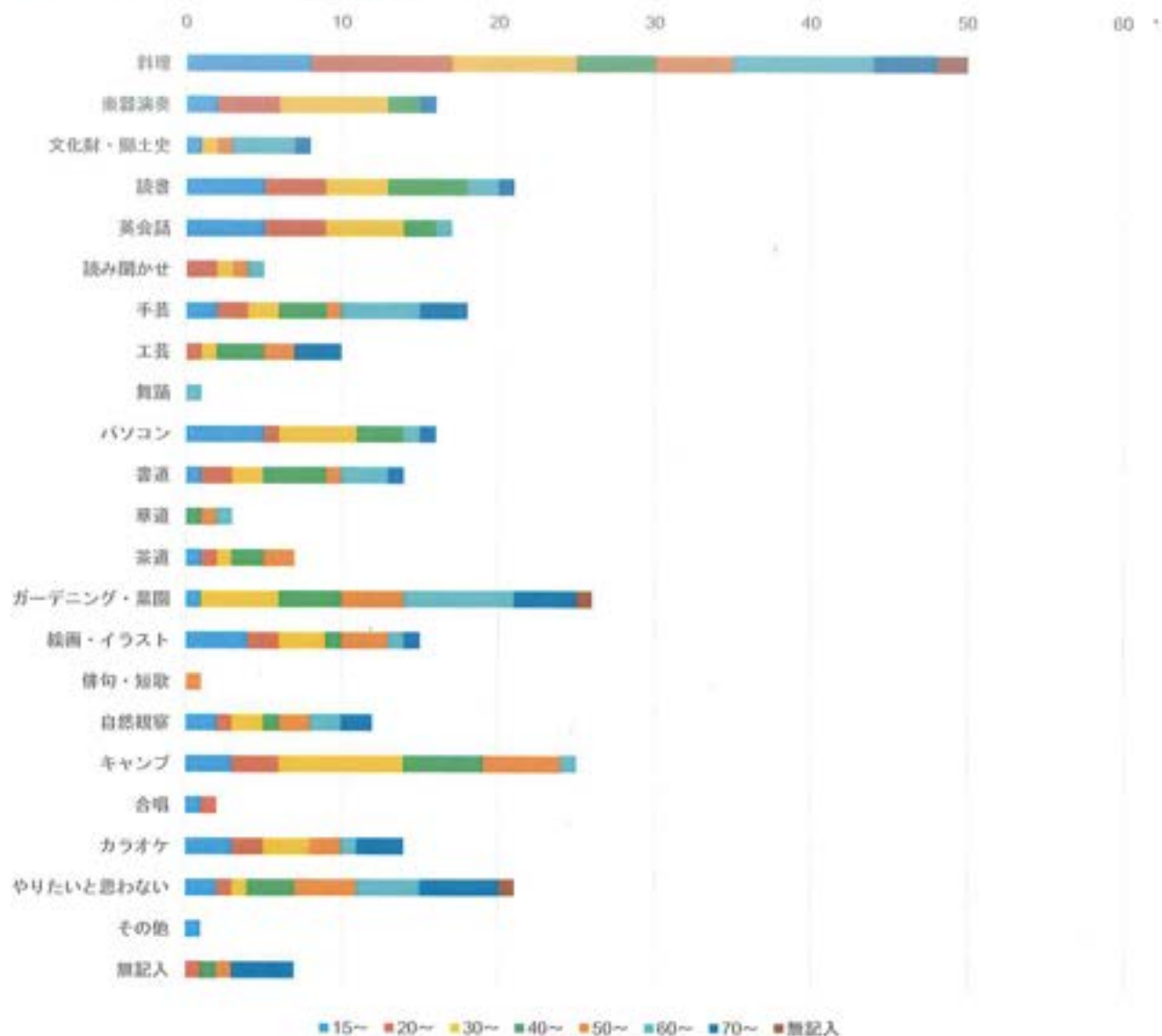


その他 ・キンボール ・カバディ ・スケート ・誰が悪くてもできる運動 ・ダイビング
 ・ダーツ ・ほとんどしている

考 察

「ウォーキング」「登山」「ヨガ」が多い。
 このようなニーズに答えることができるような事業を考える必要がある。

問15 あなたがこれからやってみよう文化活動はありますか？

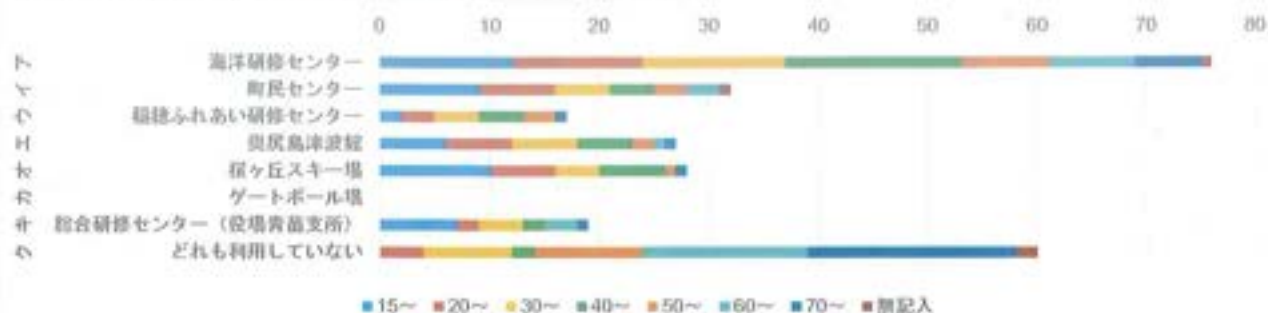


その他
ほとんどやっている

考 察

「料理」「ガーデニング」「キャンプ」が多い。
このようなニーズに答えることができるような事業を考える必要がある。

問16 あなたはこの5年で、町内の社会教育施設・社会体育施設を利用しましたか？



考察

多目的な利用用途がある海洋研修センターが一番多い。

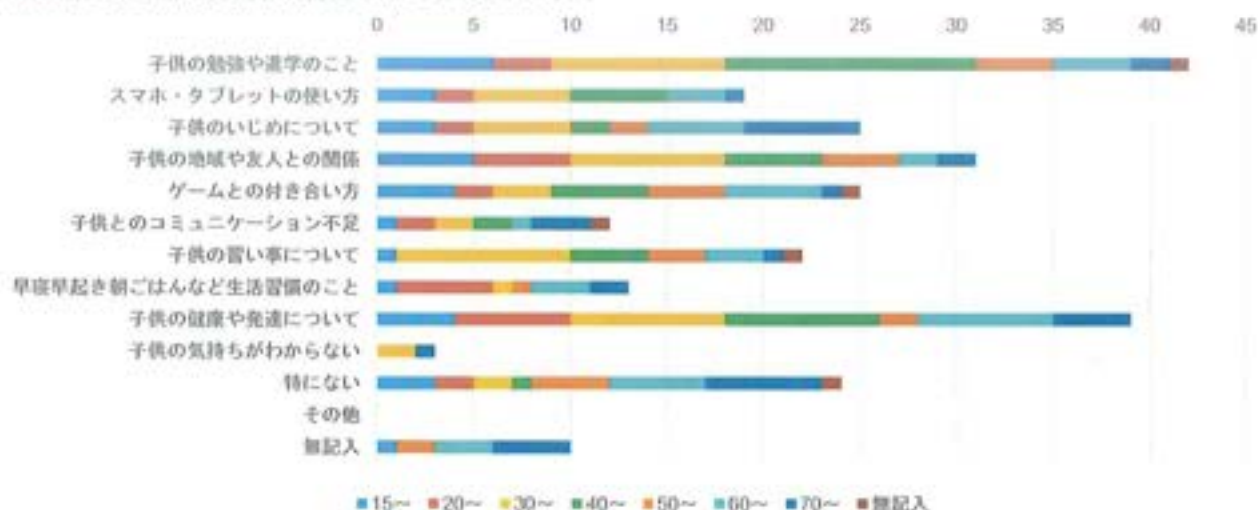
問16 また、利用した施設について、ご意見・ご要望があれば記入して下さい。

- ア 雨天や冬場に子どもたちが遊べるスペースを設けてほしい
- ア 図書購入に関して、町民が気軽にリクエストできるようにしていただきたい
- ア 図書室について、自習室もしくは適度に囲われた席があれば、良いと思います。
- イ ここでは説明しきれないが、何百円かお金を払うことで体育館が使えるようになると高校生～大人などたくさんの方が利用してくると思う。
- イ 喫煙場所の工夫。煙草のけむりは苦しくなるので困っています。本当に。
- イ 体育館解放を週1でもいいので団体だけでなくフリーで使う日を作ってほしい。
- イ 暖房が入らない
- イ 冬場、暖房が寒すぎる
- イ 冬場、暖房が寒すぎる
- ウ 興味のある人にしか、文化財、郷土資料が展示していることがわかりにくい。名称を変更してはどうか。
- エ 青苗文化のことをもっと地域住民に知らせた方がいいと思う。
- オ スキー板の貸し出しをしてほしい、観光客でスキー目的の人が来るかもしれない
- オ ロープ塔まで登るのが大変。すべる日（雪が解けた日の夜）はスキーを持って登るのがこわい！
- オ 雪でロッジ、スキー小屋が滑りやすくなっているので、出入り口に金網等を置くとよいのでは
- キ 老朽化対策
とある活動をしようとしてとある施設を借りようとしたがい返事をもらえなかった。たいして使っていない所はもっと開放したらどうか？
幅広い世代の町民が運動できる施設、環境を作ってほしい。

問17 上記以外で、使いたい、あれば便利だと考える社会教育施設・社会体育施設
または設備があれば自由に記載して下さい。

- ・自販機、テーブル、いすがあるだけの施設でも人が集まる憩いの場になると考える。
- ・(いろは)健康づくりセンターの場所がわかりにくい。もっとわかりやすい行きやすい場所だと利用しやすいと思います。児童館のようないつでも利用できる子ども用施設があると使用したいです。保育園がない分、児童館のような施設があると便利だと思う。いろはの教室は午前中だけの為、利用が難しい。時間指定なく利用できると便利。
- ・トレーニングジムがほしい
- ・子供達が自由にあそべる施設があればいいなと思います。
- ・数人で気軽に集まって勉強できたりするオシャレな空間
- ・体育館自由開放の日があればいいなと思います。
- ・体育館自由開放の日があればいいなと思います。
- ・その前に使っていない施設、廃キョと化している施設をどうにかしたらどうか。
- ・環境教育施設の設立
- ・キャンプ場の整備
- ・屋内遊具施設 保育園または乳幼児の一時預かり施設(託児所)
- ・登山道の整備
- ・防音機能を備えた施設
- ・小学生以下の子供が使える体育施設、親と一緒に日中遊べるようなところがあるとよいと思う。
- ・申請しなくても使用できる時間に記名など簡単な手続きで使用できると使いやすくて良いです
- ・屋外にサッカーグラウンドを設置して欲しい。

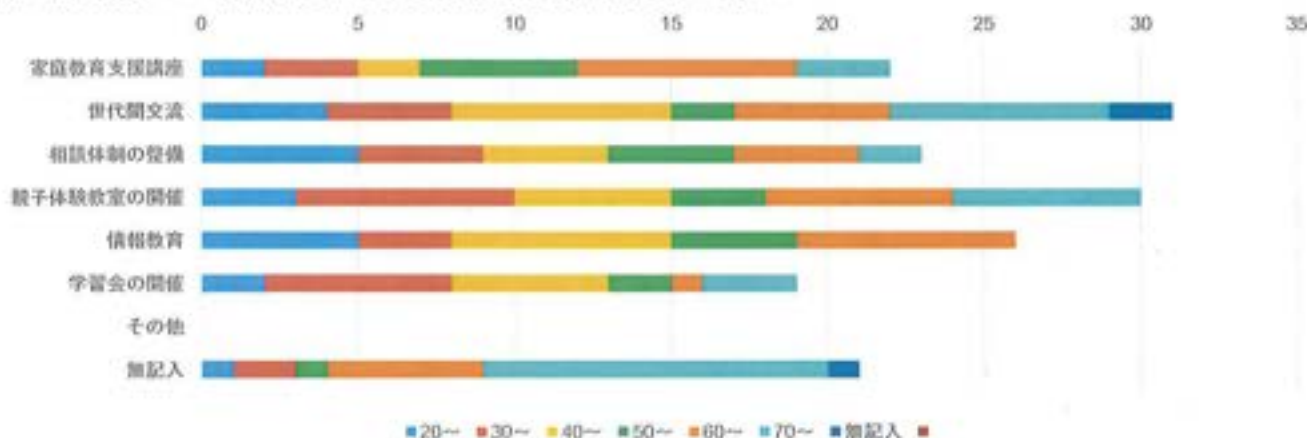
問18 子育てについて、皆さんの関心のあることについて教えてください。



考 察

「勉強・進学」「健康や発達」「地域や友人との関係」について関心があることが伺われる。今後、PTAや家庭教育支援の中で取り上げていくことが必要である。

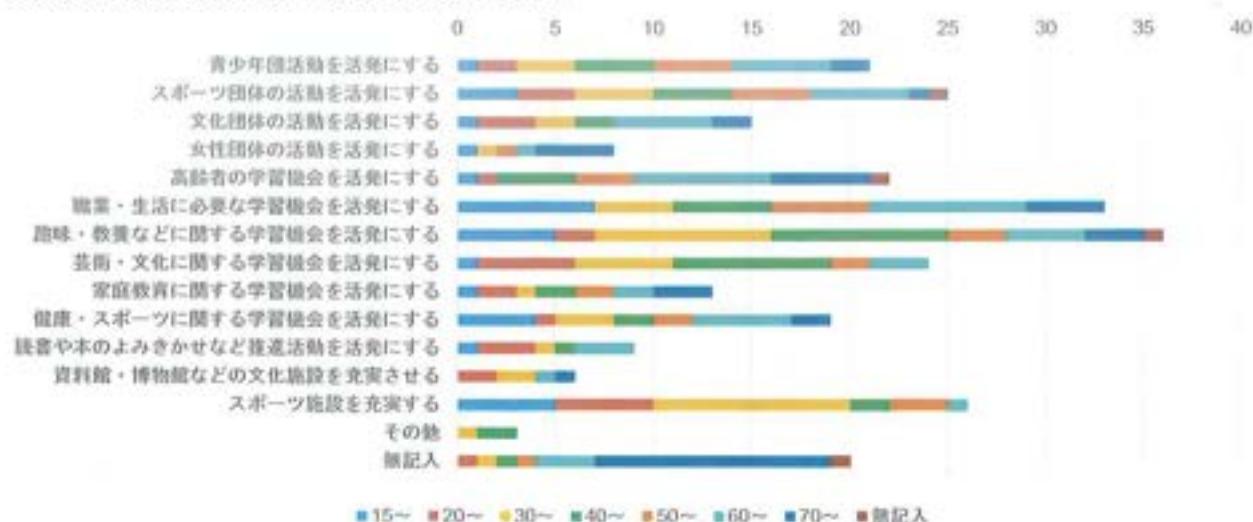
問19 家庭教育について、教育委員会がどのように支援する必要があると思いますか？



考 察

「世代間交流」「親子体験教室」が多かったことから、これらの事業を通して、家庭教育支援を行っていくことが大切である。

問20 奥尻町の社会教育振興のためにどんなことを特に望みますか？



その他

- ・団体が中心なので、個人活動、利用が可能な物があるとありがたいです。
- ・高齢者や趣味に関しては函館でみかける、ヨガ、華道、茶道、PC教室、土器の作り方などの教室
- ・子供たちのため（食育）に給食センターの設置及び給食の導入

考 察

「趣味・教養」「職業・生活」が多い。今後は様々なニーズに合わせた学習機会の提供を考えていく必要がある。

問21 日頃から、教育委員会社会教育事業に関して思っていること、今後実施してほしいことや、今ある事業への意見などございましたら、自由にお書き下さい。

- ・教育委員会の話ではないかもしれないが、高校生が入っている民宿、寮の調査をすべきと考える。そこに入っている子どもが体験したことを聞くと、ひどいこともあるため調査すべき。
- ・島内中学生がより奥尻高校に進学するような対策や案を講じてほしい。同級生の話を聞いて感じたが実際問題として高校の島外生の生活問題は大きいと思う(生活環境の違いなど)
- ・高齢者のニーズに合わせた学習会(高齢者のお手伝いをする人向けもよいと思う)。高齢者の入浴方法、入浴事故に関すること、認知症のことなどの町民の中で一番多い高齢者を支える、助けるための知識を身につける学習会があれば参加したい
- ・本の読み聞かせ?等興味あるなと思いつつ、参加までになかなか至らず…。もう少し周知ひん度があがると、とっつきやすいのかなと思います。
- ・奥尻は山や海などの自然環境が素晴らしいが、それを体験できる設備や機会が乏しく残念に思っていました。山登りや川遊び、海での活動(釣りやサーフィンなど)をもっと盛んに体験できる機会作りがあってもよいと思います。また、郷土芸能文化の体験ももっとあるとよいと思います。(冬にキャンプができる場所があると嬉しいです)
- ・子どもの習い事の詳しい情報が欲しい。(どんなものがあるのか、月謝、内容、対象年齢など)大人が参加できるのかも。
- ・学童保育はいつからなのですか？
- ・スポーツを通じて学生を指導する機会が減っている。過去奥尻在島時(H12-H21)は野球、バレーボール等交流の機会が多くあった。それに加えて、サッカーが出来る施設が欲しい。現在高校生や町民で体育館で実施しているが、屋外で出来る施設があれば、島外からも練習相手等も呼べる。
- ・中途半端に今後なってしまうなら、割り切って、やれるものややれないもの切ってしまうのは仕方ないと思う。現状の社教事業はこの苦しい中よくやっていると思う。
- ・陶器づくりや、実験、DIYなど、普段の生活では、得られない知識や体験を。心が豊かになるような体験ができるなら参加させたい、したいので、ぜひ企画をお願いします。
- ・奥尻は転勤者も多いので奥尻の地場産物を学ぶ機会があったらいいなと思います
- ・地域の人々にお手伝いしてもらい、子供たちに色々な経験をしてもらいたいです。今ある決まっていることではなく新しい発想で
- ・後継者の育成につながる漁業、林業、観光事業との連携中高生の地域への参画
- ・子供、年配の方を問わず、様々な趣味、教養、文化、芸術、スポーツ、運動を学習したり実行できる場を設けて、みんなが情報を受け取れるようにしていただきたい。
- ・子供たちの食育のため、食を通じた地元地域愛の涵養のため、給食センターの設置及び給食の導入をぜひとも実現していただきたい
- ・いろいろやってガンバってると思っています。私もスキーでお手伝いしていますが、やりがいもあるし、楽しいので、これからも協力します。
- ・地域住民が生徒学べる施設を充実させてほしい。
- ・高齢者を対象にした事業が少ないように思えます。

VI 奥尻町社会教育計画のあゆみ

第1次計画	昭和56年度	～	昭和58年度
第2次計画	昭和60年度	～	平成1年度
第3次計画	平成5年度	～	平成9年度
第4次計画	平成10年度	～	平成14年度
第5次計画	平成15年度	～	平成19年度
第6次計画	平成21年度	～	平成22年度
第7次計画	平成23年度	～	平成27年度
第8次計画	平成28年度	～	令和2年度
第9次計画	令和3年度	～	令和7年度

VII 奥尻町社会教育中期5カ年計画策定委員会名簿

奥尻町社会教育委員会

佐藤和信	(委員長)
吉岡 栄	(副委員長)
工藤明子	(委員)
佐藤鉄也	(委員)
佐藤知香	(委員)
田中さつき	(委員)
永洞達也	(委員)
宮腰屋 由	(委員)

奥尻町スポーツ推進委員会

平木 悟	(委員長)
菊地賢行	(副委員長)
佐藤鉄也	(委員)
三原真紀子	(委員)
小林英雄	(委員)
中村英子	(委員)
津山千尋	(委員)
佐藤杏子	(委員)

奥尻町文化財保護審議委員会

制野征男	(委員長)
明上雅孝	(委員)
佐藤和信	(委員)
工藤明子	(委員)
永洞 博	(委員)

奥尻町教育委員会事務局

第9次 奥尻町社会教育中期5力年計画

【令和3年度～令和7年度】

令和 3年 3月

発行 奥尻町教育委員会

担当 社会教育係

奥尻郡奥尻町字奥尻314番地地先

TEL 01397-2-3890

MAIL oku-shakyo@town.okushiri.lg.jp